



令和6年9月2日
浦和明の星幼稚園
園長 栗田 亨

記録的な暑さの夏休みが終わり、ほとんどの子が確りとした声で挨拶をし、元気にクラスへと向かいます。親子で親密な夏休みを過ごしたためか、保護者から離れられず泣いて登園する子が例年よりも多いようです。そんな子も、クラスに入れば笑顔で過ごしています。

夏休みを振り返ると、7月17日(水)の納涼祭り、おひさま教室に加え、星の子くらぶ、一般の皆さんにも参加を呼び掛けたため、コロナ前を上回る大勢のお客さんの前で、おひさま・年少・年中のみんなが踊りを披露しました。一般の盆踊りのように輪になって踊ることに初めて挑戦し、確かな手ごたえを感じました。運動会ではこの経験を生かした演技が期待できそうです。

7月19日(金)には、年長の「やったー! わくわく すぺしゃる はっぴー かい」が行われました。今年は、内容を大幅に精選し、各クラス3つのお店を出す主活動を充実させました。生絞りを提供するジュース店、100個以上作ったたこ焼き店、人力で動くクレーンゲーム店を始め、またあて、釣り、マッサージ、射的、チョコバナナ、電車と知恵を絞って考え、力を合わせて準備した一大お店屋さんごっこが展開されました。今年度は、是非下学年にも体験して貰おうと、9月に年少・年中を招待するそうです。新しい試みも「外に出て、働きかける」の一環と言えそうです。

8月26日(月)午前の「星の子の集い」には、80名の卒園児が集まりました。「星の子の集いがあるから、今日まで頑張ってきた」という熱烈な思いの卒園生、教員のマジックや劇を見たり、対抗ドッジボール大会をしたり、久々に実家に帰ってきて目いっぱい羽根を伸ばしていました。保護者アンケートでは「孫ができたなら入園させたい」と、これまた熱烈なメッセージをいただきました。さらに、幼小で極端な違いはあるものの、何とか乗り越えて大きく羽ばたいという子が例年より多いと感じられました。「次は、運動会で待っているよ」と再会を約して別れました。

同日午後には、「幼小教員交流研修会」として、大牧小学校の教頭先生始め6人の先生が来園しました。預かり保育や園の施設を見学し、それぞれの学校の接続期の取り組みについて提案、卒園生の学校での様子を中心に小グループで意見交換をしました。本園卒園児は、優しく、穏やか、「一步引くのが上手」というよさが伝えられました。一方、意地悪をされる経験が少なく、いきなり親が「許せない」と話に来ることがあった。小学校では「やりたくない」という子には、対応しきれないので、「やりたくない」ではやがて本人が困ることになる。「嫌なことは嫌と言う、自分から相談する」困った時に自分から訴える力を是非つけてほしいと言うお話がありました。

8月29日(木)のお誕生日会では、園長が夏休みに「やってみたい」こと「100年前、埼玉の近くを歩いていた武州鉄道の跡を歩いて巡る」をどのように実行し、どんなことに驚いたか、10数枚の写真の写真を基にクイズ形式でお話ししました。準備に2カ月、約17kmの鉄路と11の駅の跡を4日間かけて巡ったことを伝え、「やってみたい」を見付け、出来た時はとてもいい気持ちになる。大事なのは友達や先生に写真や絵などを使って伝え、クラスみんなで共有することだと結びました。

9月2日(月)の始業式では、お誕生日会のお話を聞き、重要な行事がある2学期、運動会やクリスマス会などやることが決まっている行事でどのようにしたら、自分の「やってみたい」が見つかるか運動会年長組のリレーを例に考えました。大切なのは、準備。何をどうするのかを確り理解し、自分の今の様子を知ること、で、「やってみたい」が見つかり、見事できた時はとてもいい気持ちになり、充実した2学期が過ごせるというお話をしました。2学期も「外に出て、働きかける」新しいことに挑戦します。保護者の皆様の更なるご理解ご協力を賜りますようよろしくお願い申し上げます。